

## 楽しく実践エコ活動

### 親子で地球温暖化を学ぶ

「登米市ゼロカーボンシティ出前講座」(市、ミズトハ共催)は12月7日、宝江ふれあいセンターで開かれ、市内の親子連れなど28人が参加しました。

講座は、みやぎ環境税を活用し、宮城県地球温暖化防止活動推進員の千葉智恵氏を講師に迎えて開催。参加者はエコキャンドル作りを体験しながら、地球温暖化の現状やリサイクルの大切さなどを学びました。沼倉和志さん(11)＝南方町新高石＝は「みんなで協力してキャンドルを作れたので楽しかったです。地球温暖化防止のために、普段からご飯を残さず食べ、節電に気を付けようと思いました」と感想を話しました。



使用済みのろうそくを活用し、カラフルなキャンドルを制作。固まるまでの間、参加者は地球温暖化対策について学びました。

## 年末年始の安全誓う

### 中学生が一日警察署長に

「令和7年度年末年始特別警戒出動式」(佐沼警察署、登米警察署共催)が12月1日、南方武道伝承館で開かれ、関係団体から約100人が参加しました。

出動式は、年末年始の犯罪や交通事故、火災などの防止のため実施される「年末年始特別警戒取り締まり」のスタートに伴って開催。式では、空道ワールドカップ2025に出場した千葉莉緒さん＝佐沼中1年＝と後藤花さん＝中田中1年＝の2人が一日警察署長に委嘱され、「『みんなでつくろう安心な街』を合言葉に、安全で安心して生活できる地域社会を実現するため、さらに一層努力していきます」と元気に宣言しました。



一日警察署長の2人の宣言を受け、式典終了後には、パトカーや消防車両などが防犯・防火活動に向けて勇ましく出動しました。

## 環境保全と食を学ぶ

### 学校などで有機米を提供

12月8、9、12日に、市立の小中学校、幼稚園、保育施設の給食で市内産の有機米が提供されました。

本市では、地域ぐるみで有機農業を推進していくため、令和6年12月に県内初となる「オーガニックビレッジ宣言」をし、有機米の提供は、その取り組みの一環として実施。南方小学校では、生産者の大久保芳彦さん＝南方町高石＝から有機米の作り方などについて説明があり、児童は環境と食の大切さを学びました。3年生の村川大輔さんは「有機米を作るのに生き物の力を借りているのは初めて知りました。これからは作ってくれる人に感謝して食べたいです」と話していました。



農業や化学肥料を使わずに育てられた有機米を食べる児童たち。「もちもちしていておいしい」と、舌鼓を打っていました。

## 願い込めた歌声響く

### 歓喜に寄すを歌う会開催

「『歓喜に寄す』を歌う会」が12月5日、新田中学校(生徒数59人)で開かれました。

今年で36回を迎えたこの会は、合唱を通して新年への希望や、目標を新たに誓うことを目的に開催。生徒たちは、輝くイルミネーションの中、学校のシンボルであるヒマラヤシーダの木の前で、ベートーベンの第九「歓喜の歌」をドイツ語で合唱したほか、朗読や独唱曲を披露しました。2年生で実行委員長の赤間遥さんは「59人の歌声が寒天に響くように、心を込めて歌いました。一人一人の願いが歌を通して皆さんに届いていたらうれしいです」と笑顔で話しました。



夕暮れ時の幻想的な雰囲気の中で合唱する生徒たち。保護者や地域住民が見守る中、美しいハーモニーを響かせました。

## 火の用心で安全安心

### 年末年始の防火広報活動

年末年始消防特別警戒期間中の防火広報活動は12月13日、イオンタウン佐沼で実施され、登米中と豊里中の生徒や女性防火クラブのメンバーなどが防火意識の向上を呼びかけました。

年末年始は、寒さが一段と厳しさを増し、暖房器具や火を取り扱う機会が増える中、慌ただしさやちょっとした不注意で火災の発生が多くなるため、防火広報活動を実施。参加した飯田琥青さん＝豊里中2年＝は「自分でも火の取り扱いには注意したいと思います。みんなで火災予防に取り組んで火災のないまちになってほしいと思います」と願いを込めました。



参加者は、火災予防リーフレットや防火啓発グッズなどを来店者に渡しなが「火の用心をお願いします」と声がけしました。

## 沿道のエールが力に

### カップマラソン大会開催

「第37回カップハーフマラソン」が12月7日、エスビー食品とよま蔵ジামをメイン会場に開催され、全国各地から集まった2300人を超えるランナーが健脚を競いました。

大会は、競歩オリンピックの山崎勇喜さんをゲストランナーに迎え、距離ごとのハーフ、10<sup>キロ</sup>、5<sup>キロ</sup>など5種目で開催。選手たちは、雄大な北上川を眺める川沿いのコースを駆け抜けました。ハーフの部に出場した千葉優多さん(24)＝石巻市＝は「初めてハーフに挑戦しました。1時間20分を切ることができて最高の気分。沿道からの声援で心が温くなりました」と話しました。



晴天の下、タイム更新や完走などを目標に走る選手たち。仮装して観客を楽しませるランナーも参加し、大会を盛り上げました。